

第22回環境コミュニケーション大賞

～ 募集の御案内 ～

◆環境報告書部門

◆環境経営レポート部門

SDGs（持続可能な開発目標）やパリ協定に象徴される持続可能な社会への移行を促進する国際的枠組みが確立されつつあり、環境・経済・社会課題の統合的な解決を目指すことが求められています。

この要請に応えるために、中長期の視点で経営戦略を立て、バリューチェーン全体で実践していく事業者が増えており、この動きは、バリューチェーン上のあらゆる規模の事業者に影響を与えています。

このような中で、環境報告書などが有するコミュニケーション機能の役割はより大きなものとなっています。ESG 投融資が活発化し、多様化する報告要請に事業者が的確に応え、自らの持続的成長のチャンスとするためにも、環境コミュニケーションの一層の創意工夫が求められています。

環境省及び一般財団法人地球・人間環境フォーラム主催の「環境コミュニケーション大賞」は、CSR 報告書や統合報告書などを含む、優れた環境報告書や環境経営レポート（環境活動レポート）を表彰することで、事業者を取り巻く関係者との環境コミュニケーションを促進し、もって環境への取組が一層活性化することを目的としております。

受賞者には、受賞の PR に活用いただけるロゴマークを提供するほか、全応募者に報告書の内容に関するフィードバックを個別に送付します。

表彰は、事業者の環境報告書などを対象とする「環境報告書部門」とエコアクション21 認証・登録事業者の環境経営レポート（環境活動レポート）を対象とする「環境経営レポート部門」*の2部門で開催します。

皆様からの多数の御応募をお待ちしております。

*平成30年4月の「エコアクション21ガイドライン2017年版」の運用開始に伴い、部門名称を「環境活動レポート部門」から変更しました。これは、新ガイドラインが、環境経営を通して企業価値向上を目指す事業者を支援・発展させることを目指しており、コミュニケーションのために作成公表するレポートの名称を「環境経営レポート」に変更したためです。

【環境報告書部門】

- 幅広い事業者の優れた環境報告を表彰します。（CSR 報告書、統合報告書など、名称は問いません。）
- 「持続可能性」「地球温暖化」「生物多様性」「信頼性」など環境側面に優れるもののほか、先進的な環境報告に取り組むものなど、業種や事業規模を問わず、多彩な賞体系を用意しています。

【環境経営レポート部門】

- エコアクション21 認証・登録事業者の優れたレポートを表彰します。
- エコアクション21 認証取得4年未満の事業者が発行しているレポートのうち、特に優れているレポートを「新人賞」として表彰します。

【共通】 全応募事業者に対して、次年度の取組に役立つフィードバックを個別に送付します。

主催：環境省、一般財団法人 地球・人間環境フォーラム

協賛：一般社団法人 サステナビリティ情報審査協会

協力：日本公認会計士協会、一般財団法人 持続性推進機構

後援：全国中小企業団体中央会、日本商工会議所

公益社団法人 経済同友会、一般社団法人 日本経済団体連合会

株式会社 東洋経済新報社、株式会社 日本取引所グループ

[環境報告書部門] [環境経営レポート部門] 募集要項

1. 表彰部門・賞の種類

※環境報告書、CSR 報告書、統合報告書など、名称は問いません。

[環境報告書部門] ※選考に当たっては、業種や規模などの特徴に配慮します。

【大賞】（環境大臣賞）

○環境報告大賞

- ・ 第 22 回環境コミュニケーション大賞環境報告書部門への応募作品で、SDGs、パリ協定やTCFD による最終報告など、持続可能な社会の形成と気候変動への対応について積極的に経営の戦略として取り組んでいることを明らかにするなど、最も優れた環境報告書。

○持続可能性報告大賞

- ・ 環境報告書として優れていることに加えて、持続可能性の視点から社会側面に関する記述に最も優れた報告書。

(※ここでいう持続可能性報告とは、環境側面はもちろん社会側面にまで報告範囲を拡大し、持続可能性や社会的責任を意識したものを指します。)

○地球温暖化対策報告大賞

- ・ 温室効果ガスの削減、その他気候変動対策について、斬新かつ具体的な数値目標を示して取組を進める企業により作成され、その取組を社会に広く伝える工夫を行っている最も優れた報告書。

【優秀賞】

○環境報告優秀賞（地球・人間環境フォーラム理事長賞）

- ・ 環境に関する優れた報告書で、大賞に準ずる報告書。

○持続可能性報告優秀賞（地球・人間環境フォーラム理事長賞）

- ・ 持続可能性に関する優れた報告書で、大賞に準ずる報告書。

○地球温暖化対策報告優秀賞（地球・人間環境フォーラム理事長賞）

- ・ 温暖化対策に関する優れた報告書で、大賞に準ずる報告書。

○生物多様性報告特別優秀賞（地球・人間環境フォーラム理事長賞）

- ・ 生物多様性に関し、特に優れた報告書。

○信頼性報告特別優秀賞（サステナビリティ情報審査協会会長賞）

- ・ 環境に関する取組についての情報発信の信頼性・透明性向上に特段の努力が見られる報告書。

○審査委員会特別優秀賞（第 22 回環境コミュニケーション大賞審査委員長賞）

- ・ 新しい国際的なレポートの枠組みに対し積極的に取り組んでいる報告書や、バリューチェーン・マネジメント、ダイバーシティ・ポリシー、情報の質の担保などにおいて特に優れた報告書。

【環境配慮促進法特定事業者賞】（第 22 回環境コミュニケーション大賞審査委員長賞）

- ・ 環境配慮促進法の特定事業者により作成された優れた環境報告書。

【優良賞】（第 22 回環境コミュニケーション大賞審査委員長賞）

- ・ 一定水準以上の優れた報告書で、同業他社や同等の事業規模の事業者間で模範となる優良な

報告書(55～60点程度)。

- ・ 優良賞においては事業規模を特に勘案するため、報告年度の連結決算売上高などを踏まえ 4 つのグループに分けて選考します。また、各グループにおいては、以下の必要条件を満たすことを要件とします。

グループ	必要条件
1. 売上高が 5,000 億円以上	・ 報告書に、「低炭素社会・脱炭素社会」、「循環型社会」及び「生物多様性」と本業の関係性に関する何らかの記述があること。
2. 売上高が 1,000 億円以上 5,000 億円未満	・ 報告書に、「低炭素社会・脱炭素社会」と本業の関係性に関する何らかの記述があること。
3. 売上高が 1,000 億円未満	・ 報告書に、「低炭素社会・脱炭素社会」と本業の関係性に関する何らかの記述があること。
4. その他(自治体、学校、非営利法人、サイトレポートなど)	・ 必要条件は特に設けない。

[環境経営レポート部門]

【大賞】(環境大臣賞)

- ・ 第 22 回環境コミュニケーション大賞環境経営レポート部門への応募作品で、最も優れた環境経営レポート(環境活動レポート)。

【優秀賞】(地球・人間環境フォーラム理事長賞)

- ・ 大賞に準ずる優れた環境経営レポート(環境活動レポート)。

【優良賞】(第 22 回環境コミュニケーション大賞審査委員長賞)

- ・ 一定水準以上の優れた環境経営レポート(環境活動レポート)で、同業他社や同等の事業規模の事業者間で模範となる優良な環境経営レポート(環境活動レポート)(15～25点程度)。

【新人賞】(第 22 回環境コミュニケーション大賞審査委員長賞)

- ・ エコアクション21の認証取得 4 年未満(平成 26 年 10 月 1 日以降に認証取得)の事業者が発行しているレポートのうち、特に優れている環境経営レポート(環境活動レポート)(2～3点程度)。

2. 応募方法及び問い合わせ先

応募に当たっては下記の環境コミュニケーション大賞事務局へ以下①～④を御送付ください。
 なお、応募に当たっては **E-mail** 及び **郵送・宅配便** などの **2種類計4点の送付が必要**となります。

【E-mail で送付するもの】

① 応募申込書データ (Excel ファイル)	<ul style="list-style-type: none"> 必要事項を入力の上、E-mail にて送付。 <u>必ず Excel ファイルのまま送付してください。</u> (PDF ファイルなどに変換しないでください)
----------------------------	--

【郵送・宅配便などで送付するもの】

② 応募申込書 (印刷したもの)	<ul style="list-style-type: none"> ①を印刷したもの。
③ 報告書・レポート など 5部 ※最終審査に推薦された場合は追加で送付をお願いすることになります。	<p>A.冊子状の報告書・レポートがある場合 冊子などの紙媒体を5部送付してください。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>A'.冊子の内容の補足情報などをウェブで公開しており、当該情報も審査対象に含めたい場合 該当する部分を印刷し綴じたものを5部、提出ください。ただし、以下の点について御留意ください。</p> <ul style="list-style-type: none"> <u>両面印刷 50 枚程度を限度</u>とします。 それぞれの内容について「報告書などのどの部分を補足しているのか」がわかるように、<u>補足対象となる報告書などのページ・章を明示</u>してください。 </div> <p>B.冊子状のものはなく、ウェブページ上でのみ情報公開を行っている場合 該当する部分を印刷し綴じたものを5部、提出ください。 <u>両面印刷 100 枚程度を限度</u>とします。</p>
④ 報告書・レポート などの電子データ (PDF ファイル)	<ul style="list-style-type: none"> ③で送付する PDF 形式のデータを CD 又は DVD に記録したもの

※応募申込書は https://www.gef.or.jp/news/info/22th_ecom/ でダウンロードが可能です。
 ※送付いただいた報告書・レポートなどは返却いたしませんので御了承ください。
 ※応募に当たっての不明点は以下の応募・問合せ先に御連絡ください。

応募期限

平成 30 年 11 月 5 日 (月) 消印有効

■応募先・問合せ先

第 22 回環境コミュニケーション大賞事務局 (株式会社ダイナックス都市環境研究所内)
 担当: 小池・北本・鈴木・佐久間
 〒105-0003 東京都港区西新橋 2-11-5 TKK 西新橋ビル 3F
 TEL: 03-3580-8221 E-mail: eco-com22@dynax-eco.com

3. 応募資格及び募集対象

(1) 応募資格

下記の募集対象において対象としている環境報告書／環境経営レポート(環境活動レポート)を公表している法人であれば特に制限はありません。自治体や学校など、営利企業以外でも応募可能です。

(2) 募集対象

[環境報告書部門]

平成29年11月から平成30年10月までに発行された「環境報告書(CSR報告書、統合報告書なども含む。環境報告が行われている報告書であれば、名称は問いません。)」を対象とします。

工場、事業場、支店などのサイト単位で発行した「サイトレポート」も応募できます。

[環境経営レポート部門]

エコアクション2.1認証・登録制度により認証・登録を受けた事業者が、平成29年11月から平成30年10月までに発行した環境活動レポート又は環境経営レポートで、対象期間が1年以上あるものを対象とします。

4. 選考方法及び選考基準

(1) 選考方法

ワーキンググループ委員会による一次選考を経て、下記の学識経験者などからなる審査委員会において選考審査を行います。なお、大賞(環境大臣賞)は環境大臣が決定します。

<環境コミュニケーション大賞 審査委員> (委員長を除く50音順)

(委員長) 八木 裕之	(横浜国立大学 大学院国際社会科学研究院 教授)
岸上 恵子	(日本公認会計士協会 常務理事)
上妻 義直	(上智大学 名誉教授)
後藤 敏彦	(環境監査研究会 代表幹事)
佐藤 泉	(弁護士)
高橋 範江	(国際統合報告評議会(IIRC)日本事務局)
竹ヶ原 啓介	(株式会社日本政策投資銀行 執行役員 産業調査本部副本部長)
寺田 良二	(一般社団法人サステナビリティ情報審査協会 副会長)
西村 治彦	(環境省 大臣官房環境経済課長)
藤村 コノエ	(認定NPO法人 環境文明21 共同代表)
森下 研	(一般財団法人持続性推進機構 専務理事)

<環境報告書部門・環境経営レポート部門 優良賞>

優良賞の受賞水準の判定は、環境報告書に様々な立場から関わる専門家からなるワーキンググループ委員会で一次選考を行い、審査委員会の確認の上、一定水準以上の優れた環境報告書／環境経営レポート(環境活動レポート)を表彰します。ワーキンググループ委員については、選考結果発表時に公表します。

(2) 選考基準

[環境報告書部門]

- 環境省の環境報告ガイドライン2012年版又は環境報告ガイドライン2018年版に沿って、基本的要件が明記されている報告書であること。
- 環境報告に必要と考えられる記載項目が適切に盛り込まれていること。
- 適切な指標の活用を始め、事業の特性に応じて内容を充実するなど、活動に関わる重要な環境側面の状況が適切に記述されていること。
- 対象組織にとって重要と考えられる項目を適切に選定し、経営層のコミットメントや適切な目標の設定・

管理などにより、取組の進展を図る中で、独自の工夫がなされ、先導的な試みとして優れていること。

- 環境報告大賞の選考については、SDGs、パリ協定やTCFDによる最終報告など、持続的社会の形成と気候変動への対応について積極的に経営の戦略として取り組み、優れた報告がなされていること。
- 持続可能性報告大賞などの選考については、環境報告書として優れていることに加えて、持続可能性や社会的責任の意識、地球温暖化対策などにおいて優れていること。
- 審査委員会特別優秀賞の選考については、GRIスタンダードや統合報告フレームワークなど、新しい国際的な報告書制作の枠組みに積極的に取り組んでいることや、バリューチェーン・マネジメント、統合思考、ダイバーシティ・ポリシー、情報の質の担保などにおいて優れた報告がなされていること。
- 環境配慮促進法特定事業者賞の選考については、同法の規定に基づいて示された記載事項などに従っていることに加え、コミュニケーション促進のための独自の工夫がなされていること。
- 優良賞については、事業規模や業態を踏まえ、一定水準以上の優れた報告書で、同業他社や同等の事業規模の事業者間で模範となること(55～60点程度)。

※なお、過去の採点基準などに関しては、<http://www.gef.or.jp/activity/economy/eco-com/>を御参照ください。

[環境経営レポート部門]

- 環境省策定の「エコアクション21ガイドライン 2009年版に基づく環境活動レポート」又は「エコアクション21ガイドライン 2017年版に基づく環境経営レポート」であること。
- 事業の特性に応じた環境への負荷や取組の状況が適切に把握、評価されていること。
- 現状を踏まえて積極的な取組が打ち出されており、より高度な取組への発展の可能性がみられること。
- 優良賞については、同業他社や同等の事業規模の事業者間で模範となること(15～25点程度)。
- 新人賞については、エコアクション21認証取得4年未満の事業者で、環境経営レポート(環境活動レポート)の対象期間が1年以上あり、かつ優れた内容であること(2～3点程度)。

5. 結果発表

平成31年2月上旬に発表予定です。受賞者には別途連絡します。

※結果発表後に、受賞報告書やレポートに重大な過失による虚偽記載などが明らかとなった場合や、受賞者の重大な法令違反などが明らかとなった場合には、受賞が取り消されることがあります。

6. 表彰式

平成31年2月20日(水)に品川プリンスホテル(東京都港区高輪4-10-30)で開催予定です。

7. 受賞ロゴマーク

環境コミュニケーション大賞において表彰された企業や事業者は、「環境コミュニケーション大賞受賞ロゴマーク」を受賞のPRに御活用いただけます。

(環境コミュニケーション大賞受賞ロゴマーク使用規程にそって活用いただきます。右のロゴマークは環境報告書部門大賞受賞のもの。)

